



楠元町：神官型の田の神



五代町：自然石の田の神



樋脇町：祢地山の田の神

そこが知りたい！

# 歴史散策シリーズ

知っているようで知らない薩摩川内市に点在する文化財をクローズアップ!!

第7回 田の神(祢地山の田の神)

薩摩藩は、新田開発に力を入れており、年貢米の徴収は他の藩以上に厳しかったようです。そのため、田の神の造立は豊穰を願う象徴であると同時に、少しでも生活を楽にしたいという農民たちの願いも込められていました。

※ 寺・仏像などをつくること

### 田の神造立の背景

顔の表情は豊かであり、容姿も大黒天型、農夫型、神官型などさまざまです。また、本市では、不定形な自然の石を田の神と見立てている場合も多いようです。

### 田の神とは

五穀豊穣を祈り、収穫を感謝する対象として、江戸時代中期から造られてきたといわれています。田の神信仰自体は全国に存在していますが、石像という形で信仰しているのは薩摩藩だけでした。



稲穂を眺める祢地山の田の神

今回は「馬頭観音」を紹介します。

また、この種類には、子孫繁栄の願いも込められており、見る角度によっては独特の造形が施されていることも特徴の一つです。豊穣のきつかけとなる稲穂の受粉に起因するともいわれています。

なお、「祢地山の田の神」は、昭和62年(1987年)に旧樋脇町の有形民俗文化財に指定されており、現在も道端から稲穂の成長を眺めています。



今回紹介した文化財位置図



隈之城町二福城跡の田の神

田の神は多彩な小道具を身に付けています。その種類としてはメシゲ・スリコギ・腕・鍬・米俵などのように、農業に関わるものがほとんどです。

### 田の神の小道具

### 祢地山の田の神

今回紹介する「祢地山の田の神」は、さまざまな容姿の中でも、最も一般的に知られた姿をしており、田の神の代表といえる一体です。農夫型で、着物に股引を着用し、頭にはシキ(蒸籠)の底に敷くもの(をかぶり)を、右手にメシゲ(しゃもじ)を、左手には扇子を持って

### 子どもたちは宝物

現在教室に通う生徒は27人。5歳

「子どもたちを指導することの魅力のひとつ」と語る。

「さあ、レッスンを始めましょう」。一面に鏡が張られた一室に青崎さんの声が響くと、それまで聞こえていた笑い声や話し声がピタッと止んだ。子どもたちが一斉に彼女に近寄り腰を下ろす。さながら自分たちの出番を待つ舞台裏のようだ。転動が多かった父の仕事の関係で、転校しなかったのは高校時代だけ。親しい友人との別れも幾度となく経験した。そのことも関係したのか、学生時代は控えめで地味な子どもだったと振り返る。きつかけとなったのは、たまたま母親に連れられて観劇した宝塚歌劇団の地方公演。小学5年生の子どもには、物語の内容までは分かるはずもない。豪華絢爛な衣装を身にまとい、舞台上で役を演じきるタカラジェンヌたちがキラキラと輝いて見えた。幕が引いた後も、その輝きは鮮烈に少女の瞳に残った。

### 憧れの舞台へ

高校2年の時、宝塚音楽学校を受験。結果は不合格。悔しくて涙がこ

「おはようございます」。日も暮れかけた午後6時過ぎ。扉を開け立ち止まり、深々と一礼しスタジオに入っていく子どもたち。母親に抱っこされたまま玄関をくぐる幼いダンサーの姿も。馴染みの面々だが、今日顔を合わせるのは初めてだから、あいさつは決まってこの言葉だ。

「さあ、レッスンを始めましょう」。一面に鏡が張られた一室に青崎さんの声が響くと、それまで聞こえていた笑い声や話し声がピタッと止んだ。子どもたちが一斉に彼女に近寄り腰を下ろす。さながら自分たちの出番を待つ舞台裏のようだ。転動が多かった父の仕事の関係で、転校しなかったのは高校時代だけ。親しい友人との別れも幾度となく経験した。そのことも関係したのか、学生時代は控えめで地味な子どもだったと振り返る。きつかけとなったのは、たまたま母親に連れられて観劇した宝塚歌劇団の地方公演。小学5年生の子どもには、物語の内容までは分かるはずもない。豪華絢爛な衣装を身にまとい、舞台上で役を演じきるタカラジェンヌたちがキラキラと輝いて見えた。幕が引いた後も、その輝きは鮮烈に少女の瞳に残った。



## 輝創 情熱

## ひとのチカラ

このコーナーでは、夢に向かって情熱を持ち続けながら、明日の薩摩川内市を創る、元気人、輝き人のこれまでとこれからを紹介します。

第7回は、青崎 純子さんです。

青崎 純子(あおさき じゅんこ)

1959年旧川内市生まれ。福岡の高校を卒業後、宝塚音楽学校へ進学。憧れのタカラジェンヌとなる。真樹ゆたか(男役)として10年間月組に在籍。宝塚歌劇団を退団後、民間会社に10年間勤務。2002年に本市にUターン。実家の母屋を改修したスタジオでミュージカル教室を経営。御陵下在住。53歳。

### 夢はタカラジェンヌ

「絶対、宝塚に入る」帰りの電車の中で誓った。それから1年後、再び挑戦し合格を手にした。夢にまで見た宝塚への第一歩。寮生活を送りながら、朝から晩まで稽古漬けの日々。先輩からの厳しい指導もあった。憧れの舞台上に立つという強い意志と、ライバルでもあり盟友でもある同期生たちと共に、辛いことも乗り越えた。初舞台の初日、観客の前に立った時の感動は今でも忘れない。舞台上立つ者の気持ち

「はつきりとした意思表示」。ミュージカルだけではなく、人として全てに通ずる基本的なこと。子どもたちの中には宝塚を夢見る者もいる。夢は何であっていい。夢を持ち続ける素敵な大人になつて欲しいと願う。ミュージカルの経験も、これから未来へ向かって成長していく子どもたちの、引き出しのひとつとなればいい。「子どもたちの笑顔は私の宝物。いい刺激と元気を、私がいとも貰っているんです」。今日もスタジオには、子どもたちの元気なあいさつがこだま

【問合先】=教育委員会文化課 ☎(23)5111(内線5233)